

2020年度の経営成績に関する詳細な分析をご説明します。

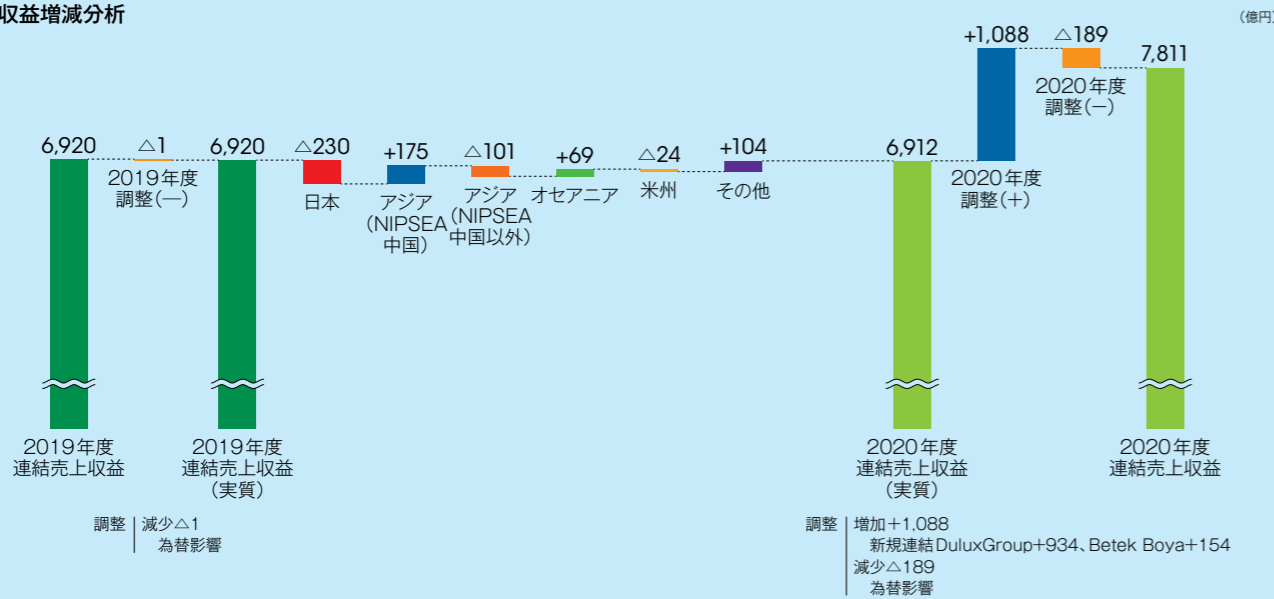
連結業績の概況

当社グループの2020年度の業績は、新型コロナウイルス感染症が各事業へ影響したものの、豪州塗料メーカー DuluxGroup およびトルコ塗料メーカー Betek Boya の子会社化に加え、中国経済の回復に伴い主力事業である中国の

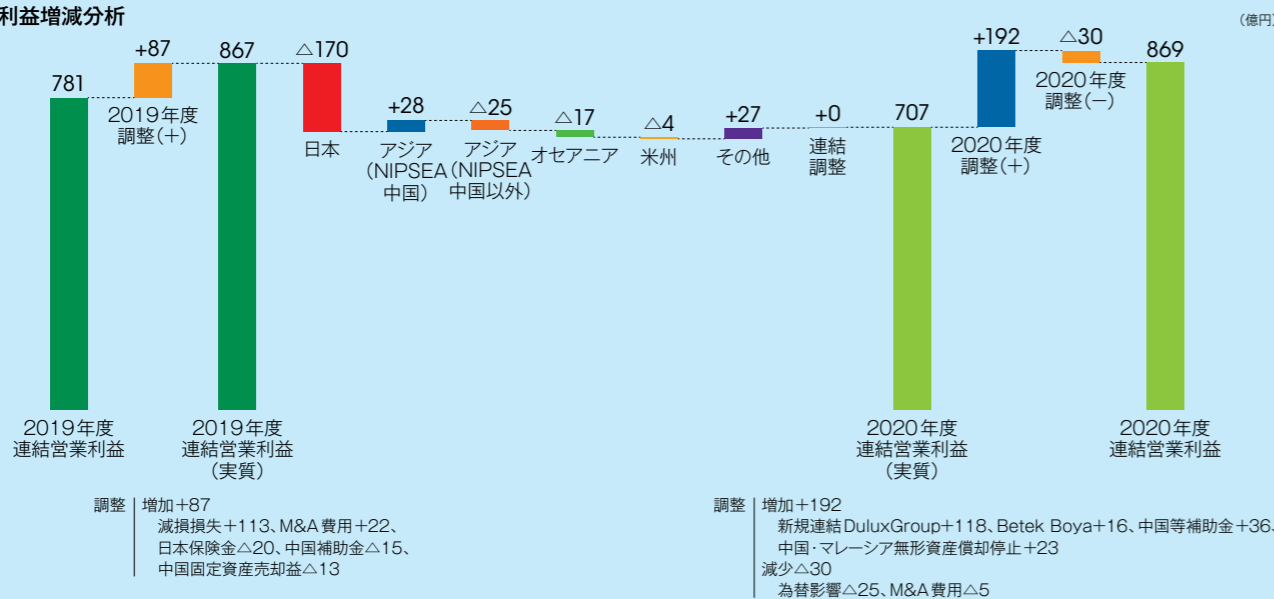
汎用塗料が好調に推移したことにより、連結売上収益は7,811億46百万円(前期比12.9%増)となりました。連結営業利益は、前期の保険金収入の反動があった一方、増収効果や原材料調達価格の低減が奏功し、869億33百万円(前期比

11.4%増)となりました。連結税引前利益は887億15百万円(前期比11.6%増)、親会社の所有者に帰属する当期利益は446億48百万円(前期比21.6%増)となりました。

売上収益増減分析



営業利益増減分析



資産、負債および資本の状況

2020年度末の総資産は2019年度末と比較して1,367億37百万円増加し、1兆6,153億84百万円となりました。

流動資産については、2019年度末と比較して1,362億80百万円増加しています。主な要因は、アジア合併事業の100%化ならびにインドネシア事業買収の資金調達に伴う現金及び現金同等物が増加したことなどによるものです。

また、非流動資産については、2019年度末と比較して4億57百万円増加しています。主な要因は、その他の金融資産が減少した一方で、有形固定資産が増加したことなどによるものです。

負債については、2019年度末と比較して1,249億11百万円増加し、9,155億78百万円となりました。主な要因は、社債及び借入金が増加したことなどによるものです。

資本については、2019年度末と比較して118億26百万円増加し、6,998億5百万円となりました。主な要因は、為替換算調整勘定が減少した一方で、親会社の所有者に帰属する当期利益の計上により利益剰余金が増加したことなどによるものです。

以上の結果、親会社所有者帰属持分比率は2019年度末の37.4%から35.2%となりました。

キャッシュ・フローの状況

キャッシュ・フローの状況

2020年度は営業活動により885億61百万円の収入、投資活動により363億68百万円の支出、財務活動により608億69百万円の収入があり、結果として現金及び現金同等物(以下「資金」という)は2,321億34百万円となり、2019年度末と比較して1,088億33百万円増加しました。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動による収入は、885億61百万円(前期比35億14百万円減)となりました。主な要因は、税引前利益に減価償却費及び償却費等の非資金支出費用等を加味したキャッシュ・フロー収入(運転資本の増減を除く)が1,312億49百万円あった一方で、運転資本の増加による資金の減少160億5百万円、法人所得税の支払額が266億82百万円あったことなどによるものです。

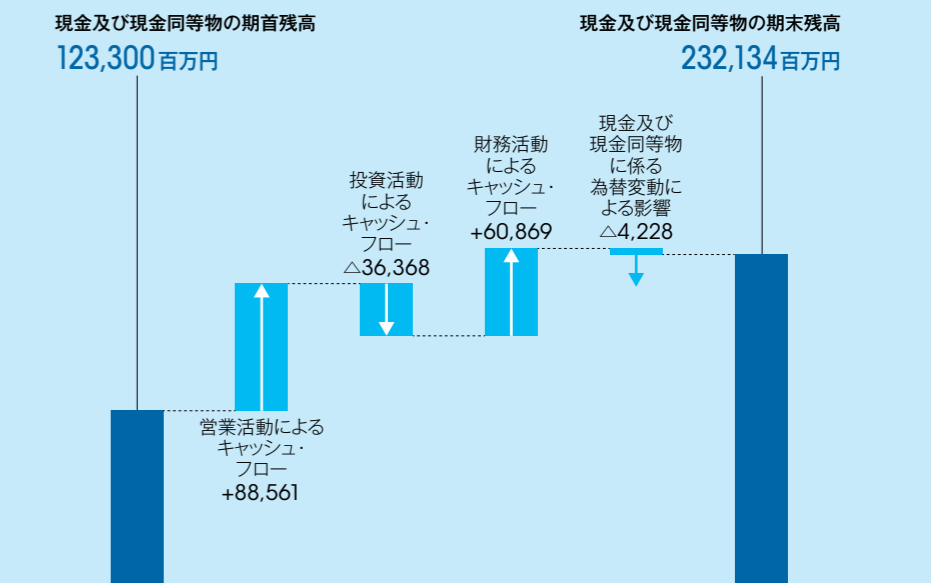
投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動による支出は、363億68百万円(前期比3,164億円減)となりました。主な要因は、定期預金の減少による69億42百万円の収入があった一方で、有形固定資産の取得による252億14百万円の支出、有価証券の増加による62億84百万円の支出、事業譲受による36億41百万円の支出があったことなどによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動による収入は、608億69百万円(前期比1,931億49百万円減)となりました。主な要因は、借入金の増加による958億61百万円の収入があった一方で、配当金の支払いによる272億49百万円の支出、リース負債の返済による74億5百万円の支出があったことなどによるものです。

キャッシュ・フロー分析



資本の財源および資金の流動性

当社グループは営業活動から得た収益が事業活動の財源ともなっており、設備投資や研究開発投資、運転資本充当や配当の支払い、借入金の返済に利用しています。また、持続的な成長の実現に向けた戦略投資に必要な資金需要に対しては、今後の収益見通し、全体的な資金需要、返済能力を考慮して財務規律を維持し外部より資金調達を実施します。2020年度においては、アジア合併事業100%化ならびにインドネシア事業の買収に関して1,000億円の外部借入を行っており、2020年度末の社債及び借入金残高は当社が4,817億31百万円、連結子会社が540億28百万円となっています。また、2020年度末の運転資本は1,645億24百万円となっています。

2020年度の現預金残高は2,321億34百万円となっており、当社の現預金保有残高は1,646億53百万円、国内子会社、海外子会社の現預金保有残高は

それぞれ29億79百万円、645億円となっています。国内子会社の現預金はCMS(キャッシュマネジメントシステム)によって当社が集中管理しています。海外子会社の保有する現預金は、主として現地での拡大再生産のために利用することを目的として保有しており、余剰資金が発生した場合に通常配当とは別に特別配当として資金を回収しています。

現時点で当社グループの事業活動を円滑に維持していく上で十分な手許資金を有しており、将来の資金需要に対しても不足が生じる懸念は少ないと判断しています。

セグメント別業績

セグメントの状況は次の通りです。

日本

自動車用塗料については、新型コロナウイルス感染症の影響により、自動車生産台数が前期を下回ったことで、売上収益は前期を下回りました。工業用塗料の売上収益については、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う生産減の継続や新設住宅着工戸数など市況の低迷により、前期を下回りました。汎用塗料の売上収益については、新型コロナウイルス感染症の影響により前期を下回りました。

これらにより、当地域セグメントの連結売上収益は1,596億25百万円(前期比12.6%減)となりました。また、連結営業利益は332億51百万円(前期比10.1%減)となりました。連結営業利益には海外グループ会社からの受取配当金260億79百万円(前期は135億85百万円)が含まれています。なお、この受取配当金は内部

取引であるため、セグメント間取引消去その他の調整額として全額消去されます。

アジア

自動車用塗料の売上収益については、タイにおいて新型コロナウイルス感染症の影響により、自動車生産台数など市況が低調に推移したことにより、前期を下回りました。一方、アジアの主力事業である汎用塗料の売上収益は、中国において新築住宅等建設および既存住宅向け内装需要の力強い回復により、上半期までの新型コロナウイルス感染症の影響を補い前期を上回りました。

これらにより、当地域セグメントの連結売上収益は3,566億9百万円(前期比0.7%減)、連結営業利益は549億57百万円(前期比8.2%増)となりました。

オセアニア

2019年9月からのDuluxGroupの損

益を当社グループの連結業績に反映しています。汎用塗料事業においては、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う既存住宅の塗り替え需要が継続し好調に推移しました。塗料周辺事業についても、同住宅リノベーション需要の影響により、堅調に推移しました。

これらにより、当地域セグメントの連結売上収益は1,482億90百万円(前期比211.7%増)、連結営業利益は161億18百万円(前期比175.0%増)となりました。

米州

自動車用塗料の売上収益については、中核地域である米国において、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い自動車生産台数が減少したことにより、前期を下回りました。汎用塗料の売上収益については、旺盛な住宅需要や好天により、前期を上回りました。

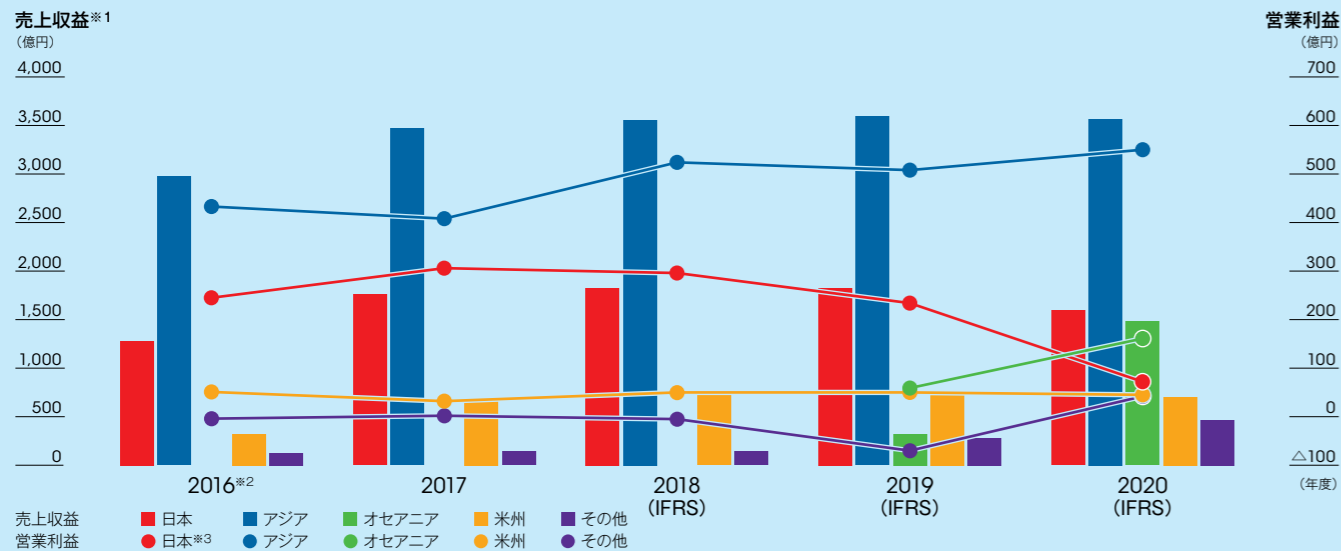
これらにより、当地域セグメントの連結売上収益は700億68百万円(前期比6.1%減)、連結営業利益は45億7百万円(前期比10.0%減)となりました。

その他

2019年7月からのBetek Boyaの損益を当社グループの連結業績に反映しています。自動車用塗料の売上収益については、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い域内の自動車生産台数が大幅に減少したことにより、前期を下回りました。一方、汎用塗料および塗料周辺事業の売上収益は、トルコの住宅着工および中古住宅販売の伸びを受け、前期を上回りました。

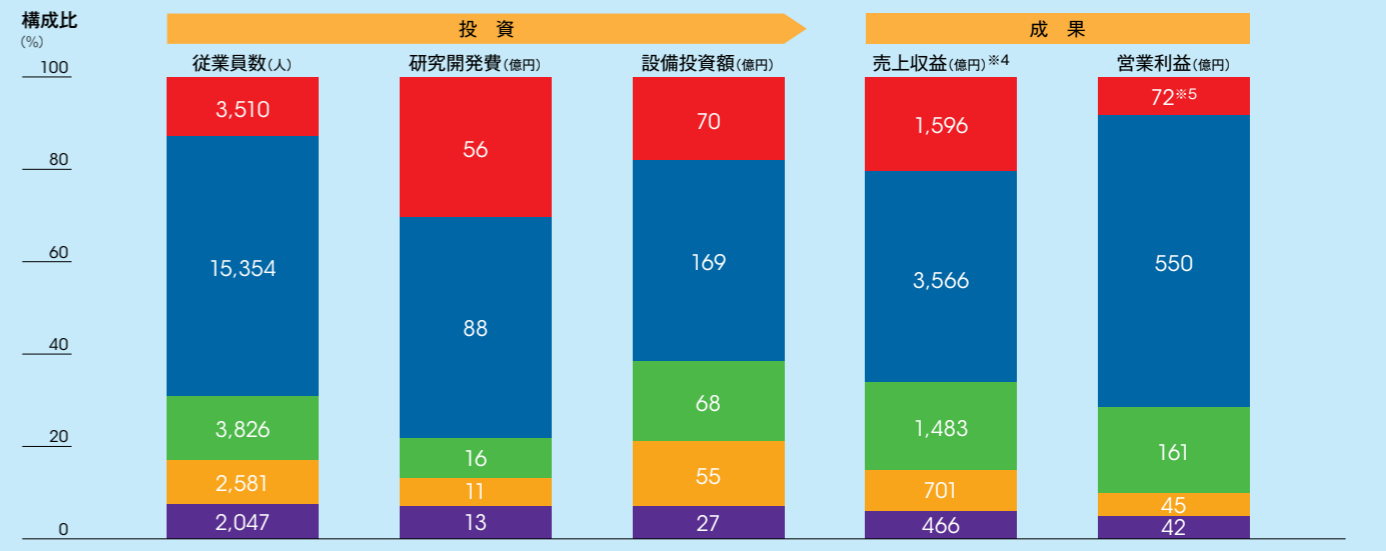
これらにより、当地域セグメントの連結売上収益は465億52百万円(前期比66.2%増)、連結営業利益は42億9百万円(前期は69億72百万円の営業損失)となりました。

セグメント別売上収益・営業利益の推移



※1 売上収益は、セグメント間売上収益を除いています。 ※2 2016年度の日本セグメントの売上収益は、決算期変更により、4月1日から12月31日までの9ヵ月間となっています。 ※3 日本セグメントの営業利益は、海外グループ会社からの受取配当金を除いています。

セグメント別投資対成果



※4 売上収益は、セグメント間売上収益を除いています。 ※5 日本セグメントの営業利益は、海外グループ会社からの受取配当金を除いています。